



BREAKING  
NEWS

企業統治不全に陥るJR東日本

## 安全を根底から覆す「法令違反」が発覚！ 不正に至った早急な原因究明が必要だ！

2月14日、JR東日本は一部車両のモーター検査について「省令違反」があったことをプレス発表しました。これは国土交通省に届け出ている検査を行うための専用装置が故障し、目視のみで検査を行っていたことによるものです。

### 部品破損で過去には事故も!!

### なぜ、専用装置が故障後も検査を続けてしまったのか。

会社は「当該部品が即座に破損や脱線に至るなどの安全上の重大なリスクはない」とプレスしていますが、1970年「総武緩行線列車ドア開け暴走トラブル」という鉄道事故があり、その原因は今回問題になっているモーターの部品の破損によるものでした。過去にこのような事故が発生しているにも関わらず、安全上のリスクはないとプレスしてしまう会社の安全意識の低さに危機感を覚えます。また国土交通省に届け出た検査項目を実施していないことは、法令違反であり鉄道の安全運行にかかわる重大かつ深刻事態です。

「なぜ不正に至ったのか」事実把握から背後要因を掴み、原因の特定と対策を打ち出さない限り、再発防止にはつながりません。定められた検査項目を実施するには専用装置が必要なのにも関わらず、なぜ故障後も検査を続けざるを得なかったのでしょうか。

### JR東日本は安全軽視の経営姿勢を改めるべきだ！

昨年は新幹線の架線トラブル、今年は既に横須賀線と山手線でレール破断が2件発生するなど、メンテナンスを怠ったことによる事故事象の連鎖が止まりません。

現在のJR東日本は鉄道事業を「頭打ち」として軽視し徹底的なコスト削減を行う一方、生活サービス事業や不動産・ホテル事業に注力しモノが言えない企業体質が蔓延しています。安全が脅かされている今こそ、「企業統治不全」に陥っているJR東日本の経営姿勢を改めさせなくてはなりません。



↑今回問題となった部品が使われている車両  
左から205系、211系、719系